

つと参加して、当時のご苦労話の中から計画を立てるコツを聞き出して、自分たちの新計画推進に役立っているという気構えがあっても良かったのではと云う印象であった。当時は「光源がない」状況で新光源を創りあげただけに熱気は当時のほうがはるかに強かった。それだけに現 PF の運転性能に加え PF-AR の高度化改造を済ませたという状況の中で、PF の将来計画を練り上げ推進することには当時とは異なる困難が予想される。PF 設立当時のプロセスを学び直し、当時の方々の熱気を別の形で補いながら、利用研究の新展開への夢と加速器性能の開発を統合して、今後の計画推進の助けとしたい。歴史は、フォトン・ファクトリー計画（仮称）が創られ議論を公にするようになってから PF 建設開始まで 10 年を要したことを示している。



高良和武名誉教授（初代施設長）による記念講演「PF 創設の頃を振り返って」



懇親会の様子

PF 懇談会新会長挨拶

平成 14、15 年度 PF 懇談会会長に就任して

PF 懇談会会長 佐々木 聡（東工大・応セ研）

このたび、はからずも PF 懇談会会長という大役に選出され、2 年間にわたって任につくことになりました。微力ですが、PF ユーザーと PF 施設側との橋渡しに努めたいと思っています。よろしくお願い致します。

最近の情勢を鑑みて、最初に取り組みなければならないのは、10～20 年先を見越した将来計画立案へのサポートだと思われまます。独法化をはじめとする不確定要素がぞくぞくと押し掛けてきています。その中で若さや活性を保ち続けるためには、スタッフにとってもユーザーにとっても、託すことができるような大きな夢をもつことです。幸いなことに、3 月 18～20 日に開催されました放射光発生 20 周年記念講演会や第 19 回 PF シンポジウムでは、「将来の光源」について活発な議論が行われました。また、PF 直線部増強や AR 増強をはじめとするここ数年の計画については、議論が充分煮詰まっていると感じました。サイエンスの面でも、ここ数年は SPring-8 や他の放射光施設と充分共存できると思われまます。

10 年先を見越した将来計画に対して PF 懇談会に求められていることは、どんなサイエンスをどんな形で展開していくかについての方向性を見出すお手伝いをする事です。PF 懇談会の目的の 1 つに、「PF の将来計画の立案とその推進」（第 3 条の 4）があります。将来計画を進める上での問題提起・提案に対し、PF とユーザーとの掛け橋となり、PF コミュニティとしての総意をまとめることが必要でしょう。将来計画を重視する新体制としては、将来を託せる若手や中堅に利用幹事をお願いすると共に、人数も 3 名に増強しました。利用幹事が対応できる分野についても、光源から VUV・X 線実験までを網羅できる陣容で、将来計画を支援しやすくしました。

第 4 世代の加速器として、リニアック型、リング型、あるいはその折衷型などが議論されていますが、第 3.5 世代リングも含めて、その中のどれを選択す

るかによって、実験ステーションの数をはじめとする施設構成や利用形態が大きく変わってきます。PF 懇談会としては、利用幹事とユーザーを中心とした第4世代計画「利用専門委員会」（細則、第10条）を早急に立ち上げ、サイエンスや利用形態を考慮することで計画推進をサポートできればと思っています。一般ユーザーの方にも、口や手を出していただきたいところです。時間的猶予はほとんどなく、独法化前の早い段階で明確なビジョンが求められそうです。

新幹事の方々を紹介します。

利用幹事： 岩住 俊明（物構研）
小林 幸則（物構研）
齋藤 智彦（東京理科大）
行事幹事： 高橋 敏男（東大）
佐藤 衛（横浜市立大）
広報幹事： 桜井 健次（物材機構）
庶務幹事： 宇佐美 徳子（物構研）
会計幹事： 土屋 公央（物構研）
編集幹事： 櫻井 浩（群工大）

どのようなコミュニティでも共通ですが、活発に活動するためには、タイムリーで適切な情報の発信が重要です。PF 懇談会としても情報活動に重点をおきます。会則には、数名の幹事をおき（第11条）、運営委員会の決定に基づいて、庶務、会計、行事、編集、利用その他の業務を行う（第12条）とありますので、上記のように広報幹事を新設することをご了解ください。この役には、前幹事会でホームページ作り等にご活躍された桜井健次さんに引き続きお願いしました。双方向の情報交換という意味では、PF 懇談会会員へのメーリングリストが前執行部で完成したのも強力な武器です。懇談会会員であることのメリットが増えてきそうです。最近、前利用幹事を中心に、「最新のユーザーのニーズ」に関するアンケートが実施され、この3月のPF シンポジウムでの討論資料として使われました。将来計画に関する内容も多く含まれています。このアンケート結果についても、PF ニュース等で積極的に公開していきたいと思います。

歴代の会長は、PF 懇談会にPF ユーザーの声をできるだけ反映させるよう努力されました。その目標とされたところは、会則の第2条と第3条に明確に掲げられています。すなわち、

第2条 本会は、高エネルギー加速器研究機構・放射光関連実験施設（以下PFと称す）における研究活動の推進のために、PFの発展、

会員相互の交流、ならびに利用の円滑化を図ることを目的とする。

第3条 本会は、その目的を達成するために以下の活動を行う。1、会員相互の情報交換。2、会員の利用に関する要望の取りまとめ。3、PF シンポジウム等の学術的会合の開催。4、PFの将来計画の立案とその推進。5、その他、運営委員会で適当と認められた事項。

です。新体制でも、PF ユーザーとPF スタッフの掛け橋になれるよう、可能な限り努力をしていきます。

最後になりましたが、何より重要なことはPFとPF 懇談会の発展です。そのためにはフレッシュな会員の増加が大切です。ぜひ、周辺の方々に入会をお勧めいただきますよう、よろしくお願いいたします。